

校長先生の初恋物語

第66話 よみがえったガブ

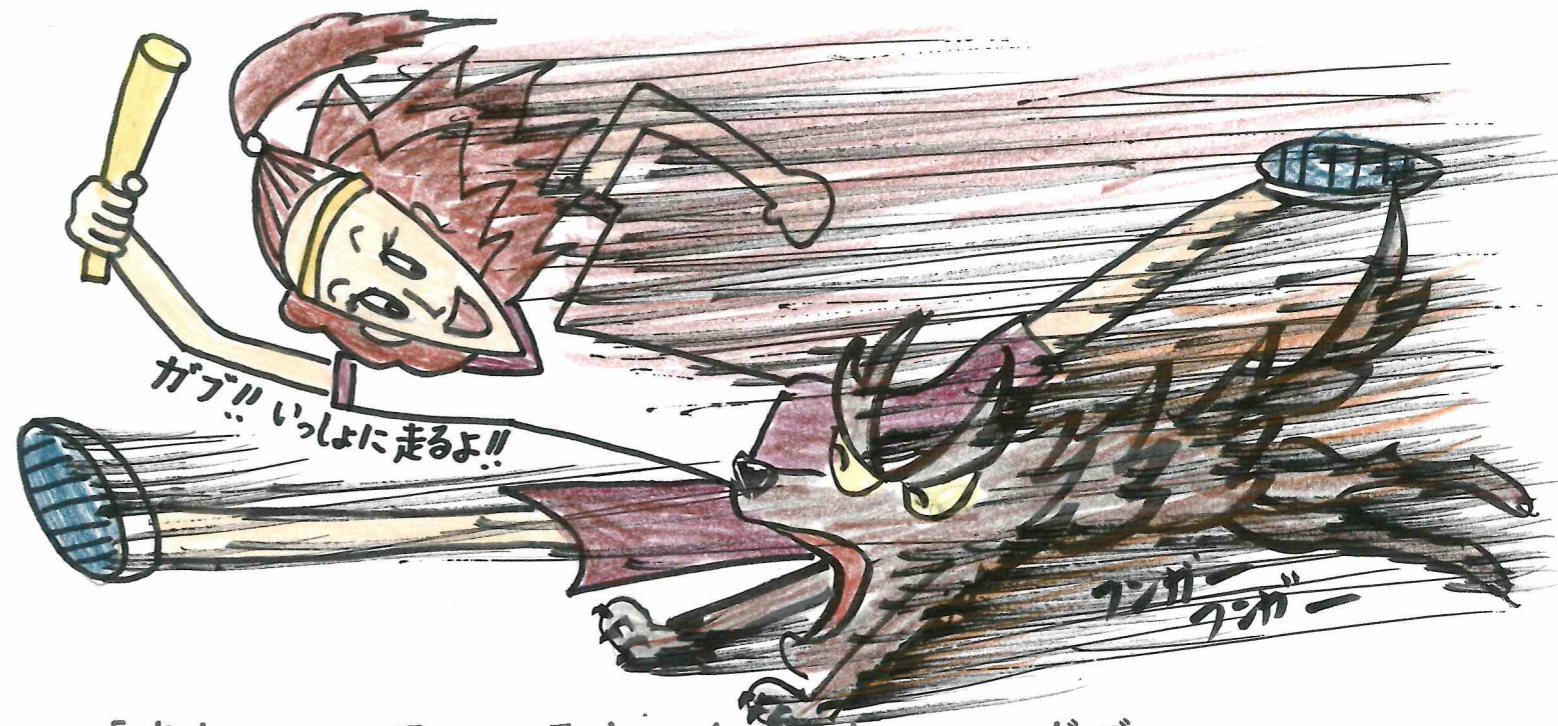
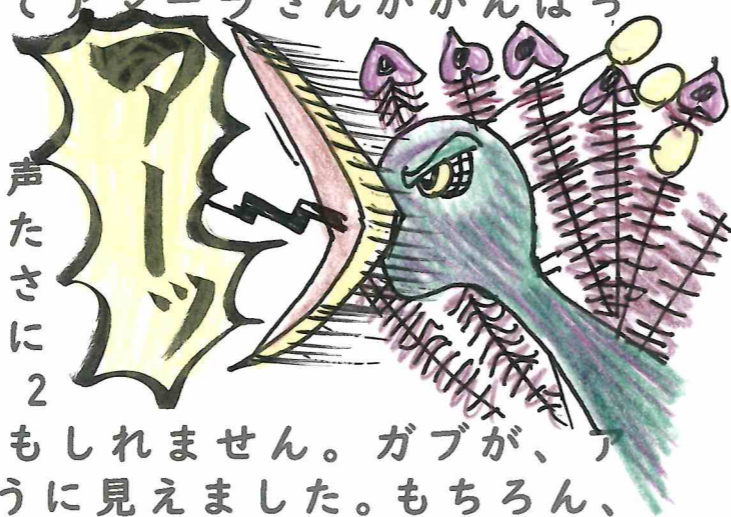
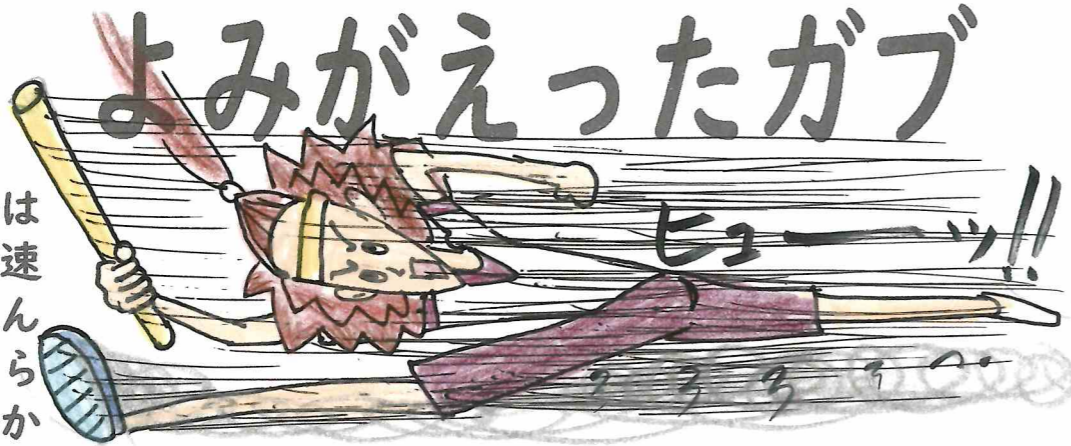
アマーラさんは速い。速い速い速い。アマーラさんは、もしかしたら人間じゃないのかもしれない。走り方も、みんなとはかなり変わっていて、ものすごく低く走るんです。

最初は、クラスに溶けこめなかったアマーラさん。顔だっけを見せてくれませんでした。そんなアマーラさんを救ったのが、ちん君です。ちん君がミッタをつくってくれたから、アマーラさんはみんなと仲良くなれたんです。今度は、アマーラさんがちん君のために走るんです。ちん君でおくられてしまったぶんをばんかいしようと、アマーラさんはさらにスピードアップしていきます。

でも、1組、3組の人達も、そうとう速い人達です。なかなか差は縮まりません。ここまでアマーラさんががんばってるのに。その時です。

「アーーーーーッ。」

クジャク小屋から、クジャクの声が響きました。その声が出た瞬間、アマーラさんのスピードはさらに速くなりました。とっくんには見えませんでした。もしかしたら、2組のみんなにも見えていたのかもしれませんが、アマーラさんの前を走っているように見えました。もちろん、ガブはいません。ガブはおそらく、この世にはいません。でも、とっくんには見えました。そしてそれは、アマーラさんにも、見えてはいはずです。



「走れーっ。アマーラさん。走れーっ。ガブーーーっ。」さけんだのは、とっくんではありません。ダンプさんです。ダンプさんにも、ガブが見えています。

「がんばれー。アマーラさん。がんばれー。ガブーーーっ。」

今度はよしこさんまで。よしこさんにも、ガブが見えているってことです。

「アーーーーーッ。アーーーーーッ。」

くじゃくも鳴き続けています。もしかしたら、くじゃくにも、ガブが見えているのかもしれませんが。

すごいぞ。アマーラさん。アマーラさんはついに、1組、3組を追い抜かしました。そして再び2組がトップになったんです。

「よっしゃーっ。」とっくんは叫びます。

「アチョーっ。」きんに君も叫びます。

そしてバトンは、とっくんに渡ります。アマーラさんは、とっくんにバトンを渡す瞬間に、こう言いました。

「とっくん。大好き。」

こんなところで、アマーラさんから愛の告白です。とっくんは、アマーラさんにこう言って、走って行きました。

「アマーラさん。ぼくも好きだよ。」つづく

次回予告 愛が背中を押している

